又治療上ニ於ケル 2, 3 ノ注意ヲ舉ゲルト腐骨形成期ニ於テハ最モ膿汁ノ流出ガ強イモノデアリ, ソノ爲早期ノ腐骨除去術ヲ行ヒ易イモノデアル。又 Brandi 及 V. Gaza 氏ノ方法即チ局所組織ヲ「アルカリ」性ニスル方法ガアル。即チ磷酸「ソーダ」液(Natryphos)ヲ用ヒ局所ノ酸度ヲ緩和スル事ニヨリ劇痛、體温ノ消失ヤ再生能力ノ著シキ恢復等ノ良好ナル結果ヲ得ル。又全身狀態ノ觀察就中長ク續イタル化膿ニ依ツテ低下セル新陳代謝ニ注意ヲ置カネバナラス。例ヘバ「ヴィタミン」D特ニ「ヴィタミン」Cハ血液ノ抗菌性ヲ2—4 倍ニ強メ得ル。

多クノ症例ニ於テハ、其ノ前處置ニ於テ失敗ガナサレナカツタナラバ、齒性顎炎ヲ避ケル事が出來得ル。其ノ原因ノ多クハ始リハ常ニ其ノ尖端部ニ病竈ノアル齒牙デアルカ、或ハ其ノ齒牙ニ前ニ治療ガナサレタカ、或ハ齒根膜炎ノ爲ニソノ齒牙ガ抜去サレタカ、範圍内ニ認メル事が出來ル。又前ニ治療ヲ受ケヌ下顎智齒難生ガ認メラレル。又稀ニハ肉芽腫ヤ囊腫ヲ急ニ押シタ事ニヨリ空洞ニ感染ガ起リ得ル。然シテ吾々ノ經驗カラ一番良イ方法ヲ述ベルト、急性齒根膜炎ノ場合ハ直ニ「レ」線ヲ撮影シ、根管ヲ開口シテ負擔ヲ輕減シテヤル。24 時間内ニ障礙ガ著シク減退シナイ時ハ傳達麻醉ノ下ニ齒牙ヲ直チニ拔去スル。然シ感染ガ既ニ齒根膜部ニ進ンテ居ル時ハ拔牙ハ不可デアル。拔牙ニ依ル感染ノ場合ニハ骨組織ニ對シテ絕對ニ安靜ヲ計ル。然シテ膿瘍形成ヲ待チ排膿セシメル様ニシ、急性症狀ガ退去シテカラ拔牙又ハ根端切除ヲ行フ。又アル例ニ於テハ拔牙ノ後ニ鋭イ銳匙ニテ搔爬スル事ニ依リ、感染物質ヲ海綿骨質内ニ磨リ込ム事ガアルガ注意シナケレバナラス。最後ニ考ヘラレル事ハ、口腔内麻醉(傳達及局所)デアルガ、コノ麻醉ハ間接ニ顎骨炎ヲ起ス誘因デアル。之ノ失敗原因トシテ非常ニ濃厚ナ Novocain ヤ Suprarenin ヲ使用スル事ヤ、注射部位ノ不充分ナル乾燥ガ考ヘラレル。殊ニ下顎傳達麻醉ノ時ニハ注意ヲ要ス。然シテ Lindemann ノ云フ如ク口腔外ヨリノ傳達麻醉ノ方が良イ。然シテコノ場合、ソノ部ノ感染物質ガ内ノ方ヘ押シヤラヌ様、後臼齒部ノ觸診ガ大切デアル。(黒澤正二)

保存療法科

〇齲蝕抑制

Controlling dental Caries By Dr. J. M. Prime
(Journ. of Amer. dent. Ass. 1937. Dec)

一般醫學ニ於テハ疾病豫防ノ智識發達シ臨牀ニ於テ屢々應用セラレツ、アルモ齒科領域ニ於テハ豫防の方面ハ甚ダ振ハザル狀態ニアリ。充填、金冠、義齒調製即齒科ニ於ケル治療の方面ノ必要ナルハ論ヲ俟タザル所ナルモコレノミヲ以テシテハ恰モ限リナク打寄セル太平洋ノ波濤ヲ箒ヲ持チテ掃キタテルト同然ニテ齲蝕ノ制限乃至豫防の方面ハ吾々ニ胎サレタル任務ノ一ナリ。

著者ハソノ一方法トシテ Howe 氏「アムモニア」硝酸銀溶液ヲ舉ゲ相當ナル效果ヲ期待シ得ルモノトナセリ。今日迄ニ行ハレタル方法ヲ以テシテハ發見シ得ザル如キ極ク早期ノ齲蝕モ此ノ溶液ヲ用フルコトニ依リテ容易ニ發見シ得ルモノニシテ而モ操作ハ甚ダ簡單ナリ。又經濟的ニモ安價ナルノミナラズ時間モ永キヲ要セズ又危險ヲ伴フコトナシ。

著者ハ乳齒永久齒トモ種々ナル齲蝕ニ應用セリ。而シテ最モ效果多シト思ハル、モノハ隣接面齲蝕ナリトセリ。隣接面ニ Howe 氏液ヲ用ヒテ著色ヲ生ズル場合ハ假令肉眼的ニ健全ナリト思ハル、齒牙面モ既ニ極ク初期ノ齲蝕ノ存在ヲ示スモノニシテ全ク健康ナル琺瑯質、象牙質ノ表面ニハ著色ヲ來サズ。即早期ニ齲蝕ノ處置ヲ施シ得ベク又 Howe 氏液ハ齲蝕ノ進行ヲ阻止スル作用モ有スルヲ以テ極ク早期ノ齲蝕ナレバ其儘充填ヲ行ハズシテ放置スルモ齲蝕ノ擴大ヲ認メ得ズトナセリ。

隣接面齲蝕ノ他溝窩ノ齲蝕、深在齲蝕ニ用ヒタルモ溝窩ニ於テハ早期ニ齲蝕ヲ發見スルニ止リ進行ヲ阻ミ得ズ又深在齲蝕ニ於テハ Howe 氏液使用ニヨリ第二次象牙質形成ヲ期待スルノミニシテ何レノ場合モ充填ヲ行フ可トス。

更ニ豫防ニ用フル場合ハ接觸點ガ生ジタル時期ヨリ始メ年 24 回 3 月毎ニ Howe 氏液ヲ用フレバ隣接面齲蝕ハ豫防シ得ルモノニアラズヤトナセリ。

Howe 氏液塗布ノ方法トシテハ防濕法ノ下ニ局所ノ清掃乾燥ヲ充分ニシタル後前齒ニ於テハ塗蠟絹絲ニテ白齒ニ於テハ「ピンセット」ニテ Howe 氏液ヲ隣接

面ニ塗布シタル後「オイゲノール」ニテ還元ス。此際子供ニテ「ラバーダム」使用不可能ナル場合著者ハ好シテ「ナフキン」ヲ使用シ屑マデ覆ヒ液ノ局所以外ニ附着スルヲ能フ限り防止ス。又齒牙ノ餘分ノ面ニ附着シタルモノハ Tripel X Silex ヲ過酸化水素ニ濕メシタルモノニテ液使用直後研磨シ置クラ可トス。

還元劑トシテハ「オイゲノール」ヲ推奨シオレリ。「オイゲノール」ヲ用フレバ pH 7 以下ニ下ルコトナク又生ズル銀鏡ハ非常ニ滑澤ナル面ヲ呈ストナス。著者ハコノ「アルカリ」性ナルコトヲ蝕蝕發生及進行阻止ニ結び付ケ重要ナル意義ヲ持ツモノナリトス。

要スルニ Howe 氏液ハ蝕蝕早期發見、制限更ニ進シテハ豫防ニモ使用シテ效果アルモノナリトナス。

最後ニ Howe 氏「アンモニア」硝酸銀溶液ノ處方ヲ示セバ

硝酸銀結晶 3 gr. 加温攪拌ス
蒸 留 水 1 cc. 煮沸不可

室温マデ冷却シタル後

28%「アンモニア」 2.5cc

徐々ニ加ヘ濾過シテ用フ。

10 日以上経過セルモノハ新シキモノト取換ヘル要アリ。古キモノハ空氣中ニテ徐々ニ還元サレ使用ニ堪エザルヲ以テ注意ヲ要ス。 (阿部正史)

○電氣の消毒ニ依ル根管治療ノ實際

(「ヨードイオン」透達療法)

Die Praxis der Wurzelbehandlung mittels

Elektrosterilisation (Iontophorese)

Prof. Dr. Hermann Prinz, (philadelphia)

(Deutsch. Z. M. K. hkd. 1938 mund und

Kieferheilkunde)

著者ハ本文ニ Iontophorese ノ實際ニ就テ大體次ノ様ナ順序ニ述ベテキル。

- (1) 機械ノ消毒
- (2) 根管及ビ齒根端感染ノ所置
- (3) 電氣の消毒ノ行ヒ方
- (4) Prader 氏ニヨル根管治療ニ於ケル細菌學的検査
- (5) 根管充填

機械ノ消毒ハ煮沸滅菌デハナクテ次ノ様ナ低溶ノ合金ヲ用ヒテキル。

- (1) 鉛……………1
- (2) 亞鉛……………2

此ノモノハ略々 170°C ニテ溶解シ 220°C ニテハ表面ガ青色ヲ帶ビタ 液體トナルソウデ消毒ニハ此ノ 170°C ト 220°C トノ間ノモノヲ用ヒル。總テ消毒スル機械ハ「ブラシ」ヤ石鹼デ機械的ニ清淨ニシテ後此ノ合金中ニ浸ス。紙ノ Point ハ 10 分間, Bohrer ハ 20 分間, 神經針等ハ 5 分間ツケテ置ク。機械ニ此ノ合金ハ大體附着シナイガ, ソレヲ防グタメニ機械ハ前ニ「パラフィン」油ノ中ニ浸シテ置クトノ事デアル。熱シテ置クトコノ合金ハ滓ガ出來ルカラ之レヲトルタメニハ, 黄蠟ヲ其ノ上ニニ溶溶解シタ後綿デヌグヒトル。

根管及ビ齒根端組織ノ所見

始メノ日ニ通例通り Kofferdam ラカケソノ齒牙ノ圍リヲ清淨ニシテ適當ニ髓腔ヲヒラキ, 神經針, Kerr ノ Broch 及ビ Natriumdioxyd, 30 % ノ Salzsäure 等ヲ用ヒテ Kanal ノ $\frac{1}{3}$ ヲ擴大, 清淨ニスル。ソシテ其ノ日ハ Todzin K Lösung 貼付シテ貼付スル。ソシテ患者ヲカエシテ 24 時間—48 時間後ニ來テモラウ。

次回ハ假付物ヲトリ又前ノ様ニシテ Wurzel Kanal ラ根端孔ノ部分マデ良ク擴大シ清淨ニスル。ソシテ根端組織トノ交通ガツイタナラバ Nadel ラ入レテ Röntgen ラ取ツテ見ル。ソシテ其ノ日ハ又 Zinkjodid ラヒタシテ假封スル。

電氣消毒ノ行ヒ方

Kofferdam ラカケ Kanal ニ Jod-Jodzinklösung ラ滿タス。ソノ溶液ノ組織ハ

Zinkjodat ……………2.0

Jodkristal ……………1.0

Aqua. dest ……………50.0

次ニ Kanal ニヨク合ツタ白金「イリジウム」ノ電導子ヲ選ビ, 齒根端マデ到達セシメル。之レヲ電池ノ陽極ニツナグ。陰極ノ電導子ハ患者ノ手ニシツカリト握ラセテ置ク。電池ハ徐々ニ通ジ, 患者ノ齒牙ニ痒イ感ジラ傳ヘル時ニハ電流ノ強サヲ弱メル。通ジル電流ハ $\frac{30}{M.A.} = \text{Zeit in Minuten}$ テ 2 M. A ノ時ハ 15 分 3 M. A ノ時ハ 10 分 4 M. A ノ時ハ, 7.5 分, 5 M. A ノ時ハ 6 分通ジルトノ事デアル。電導子ヲ Kanal ヨリ取り去ル時ハ電流ヲ切ツテ取りハズサナイト患者ハ電氣的衝刺ヲ感ズル事ガアル。多根齒ニ對シテハ各根ニ各々操作ヲ行ウ。

此ノ療法ハ 48 時間毎ニ行フガ良イ。ソシテ次ニ述ベル様ナ Wurzel Kanal ノ細菌學的検査ガ negativ